

3月の安全運転のポイント

2020年3月号

警察庁の発表によると、令和元年の交通事故による死者数は3,215人で、警察庁が保有する昭和23年以降の統計で最少となりました。そこで令和元年の交通死亡事故の主な特徴をまとめてみました。(資料は、警察庁「令和元年中の交通死亡事故の発生状況及び道路交通法違反取締り状況等について」による)

| | | |
|-------------------------------------|-------|----------------------------------|
| 令和元年の交通事故発生状況 | 発生件数* | 381,237件 (前年比 - 49,364件 - 11.5%) |
| | 死者数* | 3,215人 (前年比 - 317人 - 9.0%) |
| | 負傷者数 | 461,775人 (前年比 - 64,071人 - 12.2%) |
| * 発生件数とは、人身事故件数をいい、物損事故は含まれません。 | | |
| * 死者数とは、交通事故発生から24時間以内に死亡した人数をいいます。 | | |

65歳以上高齢者の死者数が過半数を占める

年齢層別に死者数をみると、65歳以上の高齢者が1,782人で(図1)、全死者数に占める割合は55.4%と過半数を占めています。

また、65歳以上の高齢者の死者数を状態別にみると、歩行中が819人(46.0%)、自動車乗車中が552人(31.0%)、自転車乗用中が299人(16.8%)、二輪車乗車中が101人(5.7%)となっており(図2)、歩行中に事故に遭うケースが5割近くにのぼっています。

高齢歩行者は、車が接近していても気づかずに道路を横断してくることがあります。高齢歩行者を見かけたときは、道路横断に十分注意し、スピードを落としたり徐行して走行しましょう。

事故類型別死亡事故の「車両相互」では「出会い頭衝突」が最も多い

死亡事故件数を事故類型別にみると、車両相互が1,160件(37.0%)、人対車両が1,104件(35.2%)、車両単独が814件(26.0%)となっています(図3)。

人対車両では「横断中」が735件(23.5%)で最も多く、人対車両の3分の2を占めています。車両相互では「出会い頭衝突」が400件(12.8%)で最も多く、次いで「正面衝突」296件(9.4%)となっています。車両単独では、「工作物衝突」が47件(15.0%)で最も多くなっています。

走行中は横断歩行者に十分注意をするとともに、見通しの悪い交差点などでは、一時停止または徐行をして、安全確認を確実にいきましょう。

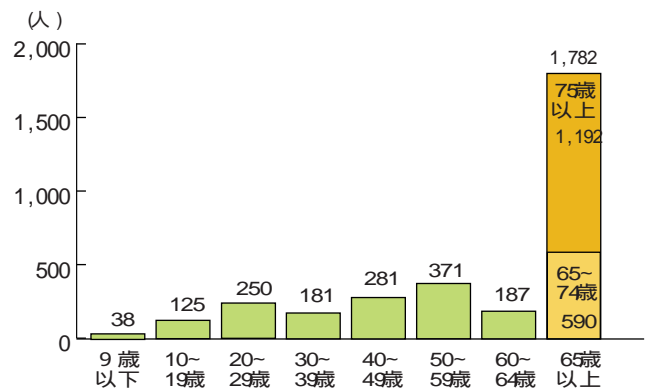


図1 年齢層別死者数 (令和元年)

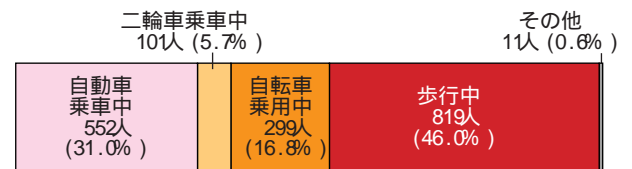


図2 65歳以上の状態別死者数 (令和元年)

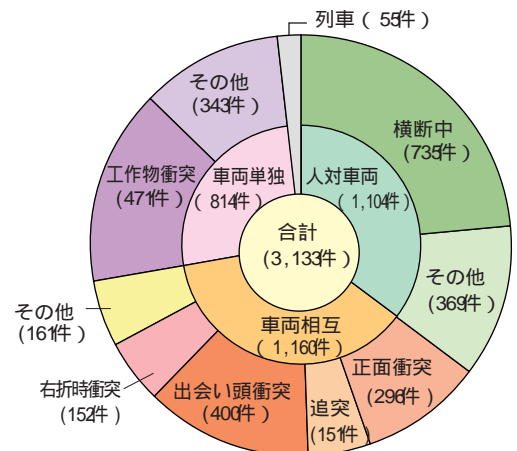


図3 事故類型別死亡事故件数 (令和元年)

